

## 〔果樹〕

### 1. 常緑果樹

#### 1) 温州ミカン

九州の温州ミカンは裏年に当たりおおむね平年並みからやや不作となったが、鹿児島、極早生や熊本の普通温州ではやや豊作となった。発芽期は1～3月の気温が低かったために1～2週間程度平年より遅く、開花期も佐賀の極早生でやや早かったほかは平年並みからやや遅れた。着花量は平年並みかやや多く、成熟期は平年並みだった。果実は夏秋期の高温と乾燥により肥大が進まない一方で糖度の高い産地が多かった。また、一部地域では日焼け果や浮き皮の発生が認められた。

#### 2) 「不知火」系統品種

熊本では平年より10日遅く発芽したが平年並みの開花期となった。果実の肥大は平年比95%と不良で減酸は平年並みに進んだが糖度は低かった。成熟期、生産量ともに平年並みであった。貯蔵中の果実では、こはん症が散見された。

#### 3) ポンカン

大分では発芽、開花とも4～8日程度遅れた。着花量ならびに生産量は平年並みとなった。成熟期は平年よりも早く、果実肥大は不良ながらも糖度は高く、減酸も平年並みで食味良好だった。鹿児島では果実肥大は平年並みで糖度も平年並みながら、減酸は早く食味は良かった。

#### 4) ヒュウガナツ

宮崎では発芽が遅れたものの開花期は平年並みとなった。着花量はやや多く生産量もやや豊作となった。果実肥大は不良で減酸も遅れたが、10月以降の好天で糖度、食味とも平年並みとなった。

#### 5) 甘夏

熊本では発芽と開花が5～9日程度遅れた一方、大分では平年より早かった。果実肥大はいずれも不良で生産量は平年並みからやや不作となった。大分では果実の糖度と食味は平年並み、熊本では高糖度で食味良好となった。

#### 6) タンカン

鹿児島では他のカンキツと同様、やや不作となった他は、果実肥大、糖度、酸度、食味はいずれも平年並みであった。

#### 7) ピロ

長崎の「茂木」は2月の寒波により幼果が凍害を被り前年比40%と凶作になった。果実肥大も不良で糖度も低かったが、収穫期の酸濃度が平年並みとなり食味は良好であった。一方、鹿児島県では寒害はなく生産量は平年並みとなった。

### 2. 落葉果樹

#### 1) ナシ

発芽、開花ともに1～2週間程度平年より遅かった。着花量は平年並みからやや少、生産量は長崎と熊本でやや豊作となった他は平年並みかやや不作となった。糖度は概ね平年並み、食味もまずまずであった。「幸水」と「豊水」ではみつ症の発生が顕著であった。また、一部地域では黒星病が多発した。

#### 2) カキ

発芽は1週間程度遅れたが開花は平年並みかやや早くなった。生産量は福岡と宮崎でやや豊作から豊作となったが、熊本の「大秋」では果実肥大がやや悪く生産量は平年並みとなった。糖度は概ね高く、食味は平年並みから良となった。

### 3) ブドウ

発芽は佐賀と鹿児島で平年並み、長崎で13日早かった一方、他の産地では最大8日程度遅れた。開花は熊本と宮崎でやや遅れたものの他の産地では平年並みかやや早く迎えた。果実肥大は鹿児島で開花後の日照不足により不良となった他はおおむね平年並みとなった。糖度、食味ともおおむね平年並みで、着色は長崎で平年並み、鹿児島では夜温が低く推移したことから良好だったが、他産地は日照不足と高温のためおしなべて不良となった。生産量は長崎でやや不作だった他は平年並みからやや豊作となった。

### 4) モモ

福岡では平年に比べ発芽、開花とも6日遅れた。果実肥大は好天に恵まれ良好だったが、収穫前の豪雨で糖度が上がらず食味はやや不良となった。生産量は平年並みであった。

### 5) クリ

宮崎では平年並みに発芽したが開花はやや遅れた。生育期間中は天候に恵まれず果実肥大は不良となった。また、開花期の集中的な降雨により受粉不良となったため生産量はやや不作となった。

### 6) キウイフルーツ

福岡では発芽は平年に比べ8日遅れたが開花は平年並みの時期となった。開花期が高温で雨が少なく推移したため受粉に好適となり生産量は平年並みとなった。糖度は高く収穫までに減酸も進んだため食味は良好となった。

### 7) イチジク

福岡では平年より6日遅れて発芽したが平年並みの時期に成熟を迎えた。果実肥大が不良だったものの糖度は高く食味良好で豊作となった。